

農村の国際化

ひらの まき とし
平 野 正 俊

全国様々な所で「農業国際化対策……」なるスローガンや看板を目にすることがある。

農業・農村の国際化といわれると、一般的にはウルグアイラウンド対応や更にはその先にある国際競争力ということになる。

海外視察に参加し、相手の経営状況を学ぼうとしても敵対意識が先行して、ウィークポイントを探ってしまうことが往々にしてある。知らず知らずの内に無表情で鋭い目になって、それでは互いに閉鎖的で心を開かなくしてしまう。結局は視察に参加しても、ほんの一側面のみが目映り、学ぶことも少なく、そこにかけた貴重なお金や時間は生かせなくなる。

バスの中から見る海外状況と、足を大地におろし感じることを、すなわち同じ農民として価値観の共有ができるとずいぶん学ぶことも多いことは今さら言うまでもない。

私は今までいくつかの会からの依頼を受け農業者の海外農業視察研修を企画サポートし同行したことがある。

先般、ニュージーランドの私の友人、タス・コロボス氏が日本にやってきた。現地ではキウイとイチゴの栽培をしている農業経営者である。私達は現在パートナーシップ農場提携をして、情報・技術交流、人材育成・共同事業まで発展してきた間柄でもある。

彼の来日を機に10年程前にニュージーランドを訪問した仲間達と集う機会に恵まれた。もちろん現地でコーディネイトしてくれたのはコロボス氏である。

参加者の出席率80%以上という驚異的な人気は、「農」にかかわる人間としての仲間意識と価値観の共有、それ以外の何ものでもないことをあらためて痛感した。農は、まさに共通の「言語」、それらはまさに歌を歌い、踊

り、スポーツをするかのような共通の感動なのだ。勿論、英語ができる仲間ばかりではないが、互いの農業状況を伝え合い、同じ農業者としての自信と誇りを持って、農業をし、俺達も頑張ろうという活力が湧きでてくる。

農業の問題点、国の政策から地球レベル、そして個々の農業経営の課題までもが交換し合うことができる。そして、多くのヒントを得ることができたり、協力しあえることで課題を乗り越える方法が見えてくる。未来への夢や可能性をも見ることもできる。

例えば、私達は日本の生鮮食料品の市場価格、販売価格、流通のシステム、消費者ニーズを伝える。それらは、貿易会社や商社がらの情報でなく常にダイレクトに伝えることができる。

現地でも農民は生かさず殺さず、つまらぬ理由をつけては、安く買いたたかれる（世界中の農民の課題である）。現状が解れば展開できる手法がわかる。輸入生鮮食品の価格が安定し、安全管理がきちっとできれば、日本の消費者も安全な食生活、すなわち人間の「命」を守ることができる。そして日本の市場価格も安定すると、日本の農業者も経営が安定する。

ニュージーランドのコロボス氏は現地でイチゴのハウス栽培をやりたいということで、私達農業者仲間のイチゴ栽培者が協力することになった。そこで、まず研修で日本の品種や栽培方法を学んだ。次に栽培に必要な資材の導入には特に気象条件の分析に苦勞し、気温・日照量や紫外線量を把握し協力・建設もした。コンパクトな管理機（耕作機械）等も日本から導入し、イチゴづくりがはじまった。こうしてニュージーランドではじめてのイチゴハウス栽培はスタートし、見事なイチゴが実っている。もちろん途中には栽培技術に対する様々な課題、病気の問題や秀品率低下等があったが、写真のやり取りや現場を見ることが、病名や交配不良等がその原因であ

ることを突き止め、技術は確実に向上しつつある。

更には、他に類を見ないイチゴのため、販売面でどうしていくかであった。そこで高級レストランや、ホテルで使っていただく営業をし、日本人の良く利用する場での展開となった。「ニュージーランドのイチゴはさすが立派で凄い」という感想をニュージーランドを訪問した日本人から聞くのは愉快だ。

また、私はキウイを栽培しているが、現地の技術を学ぶことで、例えば剪定という大変な作業が半分以下の時間でできるようになったり、優秀な品種を紹介されたり、人工授粉に使う花粉を国内価格の30%程の低価格で購入できたりする事により、コストダウンを図ることができる。

こうした活動を更に安定すべく、またその他諸外国や日本国内の各地のグループとも、農業者として共に目覚め、自立、連帯し、共

生すべく、「国際農村ネットワーク」という会を設立してきた。民間、すなわち草の根レベルで相互の高揚を図るものである。

国際農村ネットワークは学習会の開催や、共同研究、研修生の交換や技術者派遣、青少年を健全に育成すべく、ファームステイ体験プログラム等もスタートさせ、継続性のある農業の国際化を目指している。

近年、通信手段の変化は著しく、電子メールを使い画像のやり取りまですれば、つぶさに互いの農業状況や栽培状況がわかり、情報や技術を高めていけることを確信している。

農民のNPO（非営利組織）ネットワークによる「目覚め・自立・連帯・共生」のイニシアチブによって世界の農業が変わってくる。

「農業」という共通の「言語」を舞台に、これからの「農村の国際化」は楽しみだ。

（静岡県掛川市・農業）